【事業概要】

１．名称　　：木造　地蔵菩薩立像

２．員数　　：１躯

３．修理期間：平成３１年３月１日～令和元年１１月１日

４．所在地　：－

５．連絡先　：－

６．施工者　：古仏修復工房

【法量】 ※修理完了後

・地蔵菩薩立像

像本体	像高	45.4cm	最大幅	14.0cm	最大奥	12.4cm
	髪際高	42.4cm	総高	47.2cm	足ホゾ高	1.4cm
光背	最大高	55.1cm	最大幅	19.2cm	最大奥	15.0cm
	ホゾ高	2.4cm				
台座	最大高	19.7cm	最大幅	25.6cm	最大奥	19.0cm
全体	総高	74.9cm	最大幅	25.6cm	最大奥	19.0cm

【品質構造】

・地蔵菩薩立像

木造（桧材）。一木造り。玉眼。漆箔像。肉身部については金を蒔く。衣部分は漆箔。

未解体だが以下のような構造と思われる。

頭頂より足底まで両袖材も含めて一材から彫り出し、前後に割り矧ぐ。未確認だが体部にも内刳りが施されている可能性が高い。玉眼嵌入。両手先、持物は別材。

【修理基本方針】

・亡失箇所については復元する。

・後補個所については基本的に除去する。

・新たな補修箇所については色合わせを行い、全体の統一をはかる。

【損傷状況】

・本体

① 欠失、亡失個所について

・小欠失個所がある。（右指先の一部、その他小欠失）

② 部材の接合について

・接合がゆるんでいる個所がある。（両手先）

・体幹部前後の接合が像底から１／３程度外れている。

③ 後補個所について

・後補部分（左耳朶、持物）

・全体に漆の塗り直しが行われている。

・光背

① 光背は後補

・台座

① 欠失、亡失個所について

・亡失部材がある。（蕊背面材）

・欠失個所がある。（各部の複数個所）

② 部材の接合について

・主要部材の接合が外れたり、ゆるんでおり、全壊状態。

③ 後補個所について

・後補部分（敷茄子正面材、框、隅足）

・彩色と漆の塗り直しが行われている。

【修理仕様】

・本体

① 欠失、亡失個所について

・亡失部材は新造した。（両足先、持物※宝剣、羂索）

・小欠失個所は形を補った。（頂蓮の一部、裳裾の一部）

② 部材の接合について

・接合がゆるんでいる個所は接合を外し、再接合した。（辮髪、右腕、両足ホゾ）

・宝剣が直立するように、右肘を接合する角度を調整した。

③ 彩色について

・部分的に剥落止めの処置をした。剥落が目立つ個所は補彩した。

・光背

① 欠失、亡失個所について

・亡失、欠失個所は新造した。（炎の先端部、複数個所）

② 接合がゆるんでいる個所は接合を外し、再接合した。

③ 光背が自立するように材を足し、ホゾを調整した。

・台座

① 欠失、亡失個所について

・亡失部材は新造した。（胴正面の飾り、框の両側面及び背面材）

・欠失個所は新造した。（岩座の受け板※正面材、その他小欠失がある。）

② 部材の接合について

・接合がゆるんでいる部材などは解体し、再接合した。

・胴部分の束について、長すぎるものは僅かに削り調整した。

③ 彩色、漆層について

・彩色については、剥落止めの処置をした。（岩座）

・漆層については、剥落止めの処置をした。

【写真】

①［修理完成写真］

全景（正面）

全景（背面）

全景（右斜め）

全景（左斜め）

本体（正面）

光背、台座（正面）

②［修理前写真］

全景（正面）

全景（背面）

本体（正面）

③［解体風景］

ホゾ部分

本体の解体部材

台座の解体部材

④［新補個所］

全景（正面）

全景（背面）

光背、台座（正面）

【写真】

①［修理完成写真］

全景（正面）

全景（背面）

全景（右斜め）

全景（左斜め）

本体（正面）

光背、台座（正面）

②［修理前写真］

全景（正面）

全景（背面）

本体（正面）

③［解体風景］

ホゾ部分

本体の解体部材

台座の解体部材

④［新補個所］

全景（正面）

全景（背面）

光背、台座（正面）